

熊本県リスクレベルの改定について

【リスクレベル設定の目的】感染者数が増加に転じるタイミングを早期に捉え、警戒を発する基準を設定することで、感染拡大防止に向けた対策の徹底や県民への早期の警戒を呼び掛ける。

- ・本県のリスクレベルは、国のステージ分類と併用し運用していたが、感染者数の増加と重症化率の低下等から、県民の危機意識と齟齬が生じてきた。
- ・国において、従前のステージ分類をレベル分類として改定した。

国の新たなレベル分類

【背景】国民のワクチン接種率が70%を超え、医療提供体制の強化や治療薬開発が進み、疾病との向き合い方が変化。医療逼迫が生じない水準に感染を抑え、教育や日常生活、社会経済活動の回復を促進すべき。

【概要】感染の状況を注視するが、医療逼迫の状況により重点を置いた。レベルを上げるタイミングについて、これまでの指標に加え、国が示したツールによる必要病床数予測を用いることとした。

国は、感染リスクを引き下げながら経済社会活動の継続を可能とするコロナ対策に転換



- 本県のリスクレベルは、医療提供体制が整っておらず、ワクチン接種のなかった時期に設定
- これまでの県リスクレベルと国ステージの併用は、分かりにくいとの指摘もあった
- 今回の国レベル分類は、都道府県で基準設定を行うこととされているが、時短要請等の目安も示されておらず、都道府県で運用に相当なバラツキが生じる懸念がある



方針

**本県のリスクレベルを国レベル分類と統合する。
国や各県の動向を踏まえ、本県の実情に適した基準の設定を目指す。**

この方針について、第8回専門家会議(11月28日)で了承を受けた上で検討作業を進め、第9回専門家会議(12月8日:書面開催)で改定について了承を得た。

熊本県リスクレベル（令和3年12月改定）

【熊本県リスクレベル】

【目的】感染者数が増加に転じるタイミングを早期に捉え、警戒を発する基準を設定することで、感染拡大防止に向けた対策の徹底や県民への早期の警戒を呼び掛ける。

※あくまでも目安であり、現状がどのレベルに位置付けられるか、また、具体的な対策は、本県あるいは全国の感染状況及びその傾向（拡大・縮小）を踏まえ、実施する地域やその内容も含め、総合的に判断する。

レベル	該当する状況	本県の基準		本県で想定する対策例
		病床基準※2	新規感染者基準※3	
レベル4 避けたい レベル	一般医療を大きく制限しても対応困難	80% (645人)	—	<ul style="list-style-type: none"> ・国への災害医療的な対応依頼 ・積極的疫学調査の重点化 等
レベル3 対策強化 レベル	一般医療の制限が必要	40% (323人)	50人 (874人)	<ul style="list-style-type: none"> ・ワクチン・検査パッケージ制度適用の停止 ・【緊急事態措置】の対策 <ul style="list-style-type: none"> -飲食店等の人数制限要請※1、休業・時短要請 -イベントの人数制限要請※1 -県外移動は極力控える呼びかけ※1 等
				<ul style="list-style-type: none"> ・【まん延防止等重点措置】の対策 <ul style="list-style-type: none"> -飲食店等の人数制限要請※1、時短要請 -イベントの人数制限要請※1 -県外移動は極力控える呼びかけ※1 等
レベル2 警戒強化 レベル	感染増加傾向が見られているが、病床数を増やすことで対応できている状態	15% (121人)	10人 (175人)	<ul style="list-style-type: none"> ・飲食店を起因として県内の感染が拡大する場合、認証店以外の飲食店の時短要請※4、国へのまん延防止等重点措置要請
				<ul style="list-style-type: none"> ・国とまん延防止等重点措置要請の協議開始 ・感染状況に応じ、感染不安を感じる無症状者への検査受検要請を検討 ・飲食店等の人数制限要請※1 ・感染リスクが高い場所への外出・移動の自粛要請 ・感染リスクの高い行動回避の呼びかけ ・段階的な病床の確保 等
レベル1 維持すべき レベル	一般医療が確保	—	1人 (17人)	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的感染防止対策徹底の要請 ・イベントの感染防止対策徹底等の要請
レベル0 感染ゼロ	新規感染者ゼロを維持	県内で継続的な感染が起こっていない状況		<ul style="list-style-type: none"> ・緊急事態宣言・まん延防止等重点措置地域への移動を控える呼びかけ※1 等

(※1)ワクチン・検査パッケージ制度適用による緩和対象

(※2)最大確保病床使用率(12/1時点：806床に対する入院者数)

(※3)週感染者数/人口10万人(本県人口換算)

(※4)自主的に時短に協力した認証店には協力金を支払う。

(注1)病床基準と新規感染者基準を踏まえ、感染拡大傾向や他県の状況を鑑み、総合的にレベル判断を行う。

(注2)感染状況や、重症病床使用率、変異株の流行状況によっては、基準によらない判断を行うことがある。

熊本県リスクレベル（令和3年12月改定）設定の考え方

【熊本県】
 目的 ポイント1：病床逼迫が生じないタイミングでレベルを引き上げ、警戒・対策を強める
 ※あく 徹底やその傾向
 （拡大・縮小）を踏まえ、実施する地域やその内容も含め、総合的に判断

レベル	該当する状況	本県の基準		本県で想定する対策例
		病床基準※2	新規感染者基準※3	
レベル4 避けたい レベル	一般医療を大きく制限しても対応困難	80% (645人)	—	<ul style="list-style-type: none"> 国への災害医療的な対応依頼
レベル3 対策強化 レベル	一般医療の制限が必要	40% (323人)	50人 (874人)	<ul style="list-style-type: none"> ポイント2：感染状況に応じ、迅速な初動対応により効果的な対策を開始する <ul style="list-style-type: none"> レベル2内に段階を作らず、迅速に対策開始。 認証店制度が全国でもトップクラスで普及している状況を鑑み、時短要請の開始は飲食店を起因とした感染拡大が見られるかをもって慎重に判断する。
レベル2 警戒強化 レベル	感染増加傾向が見られているが、病床数を増やすことで対応できている状態	15% (121人)	10人 (175人)	<ul style="list-style-type: none"> イベントの人数制限 県外移動は極力控える呼びかけ※1 等 飲食店を起因として県内の感染が拡大する場合、認証店以外の飲食店の時短要請※4、国へのまん延防止等重点措置要請 国とまん延防止等重点措置要請の協議開始 感染状況に応じ、感染不安を感じる無症状者への検査受検要請を検討 飲食店等の人数制限要請※1 感染リスクが高い場所への外出・移動の自粛要請 感染リスクの高い行動回避の呼びかけ 段階的な病床の確保 等
レベル1 維持すべき レベル	一般医療が確保	—	1人 (17人)	<ul style="list-style-type: none"> 基本的感染防止対策徹底の要請 イベントの感染防止対策徹底等の要請
レベル0 感染ゼロ	新規感染者ゼロを維持	県内で継続的な感染が起こっていない状況		<ul style="list-style-type: none"> 緊急事態宣言・まん延防止等重点措置地域への移動を控える呼びかけ※1 等

(※1)ワクチン・検査パッケージ制度適用による緩和対象

(※2)最大確保病床使用率(12/1時点：806床に対する入院者数)

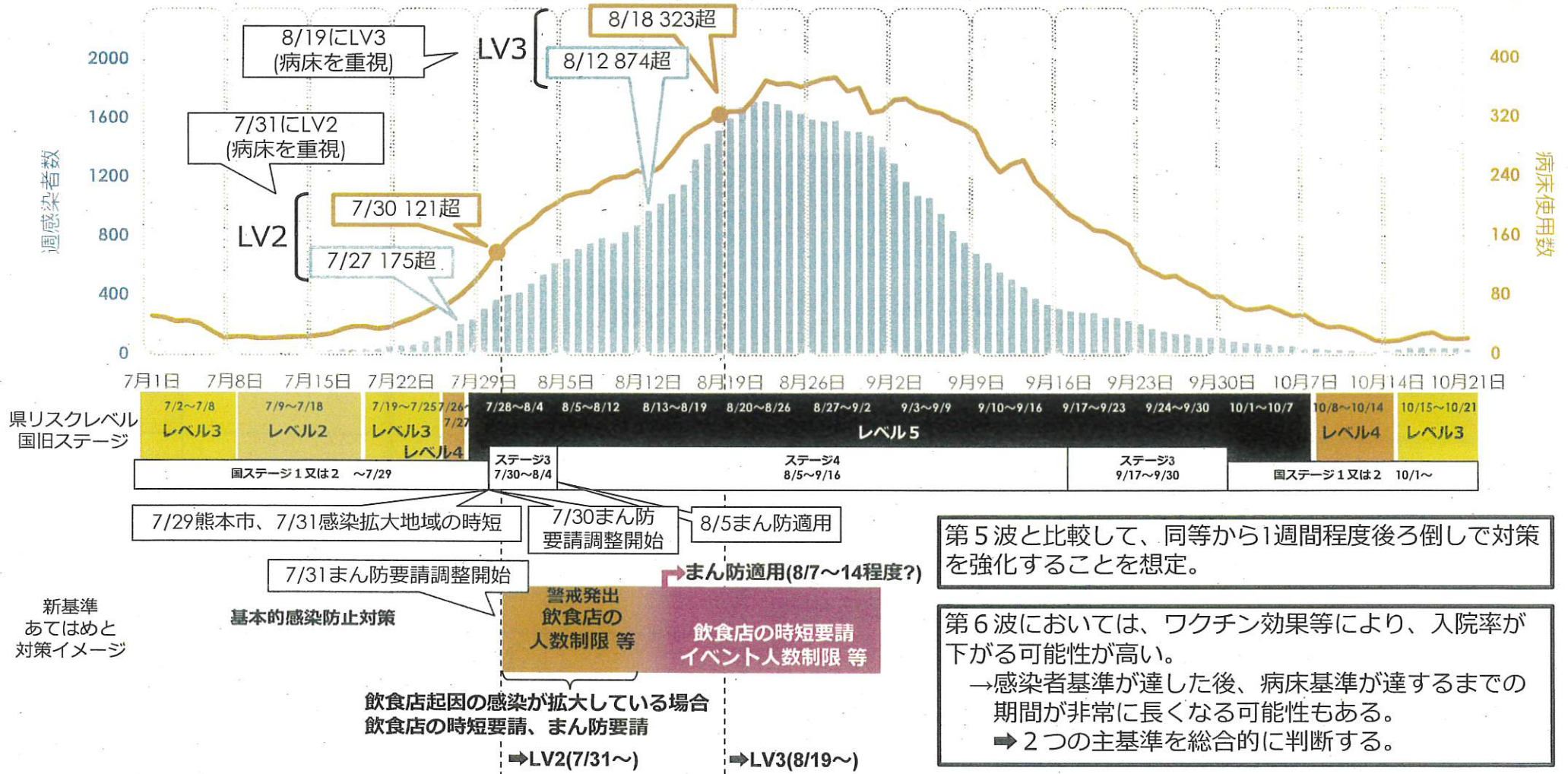
(※3)週感染者数/人口10万人(本県人口換算)

(※4)自主的に時短に協力した認証店には協力を支払う。

(注1)病床基準と新規感染者基準を踏まえ、感染拡大傾向や他県の状況を鑑み、総合的にレベル判断を行う。

(注2)感染状況や、重症病床使用率、変異株の流行状況によっては、基準によらない判断を行うことがある。

第5波の感染状況への新基準のあてはめ



今後のリスクレベルの運用について

- これまでどおり、原則として病床は水曜日の状況、新規感染者は木曜日~水曜日の状況で判断し、金曜日に公表を行う（感染拡大時は曜日によらず緊急引き上げを行う場合がある）。
- 新規感染者数の集計には、【公表数】を用いる。
- 座長コメントは、原則としてレベル2以上で発表する。